

12月豊川市議会傍聴記

地方政治 クリエイト **伊藤 秀昭**

と答えた。

八木月子氏(一人会派)は高齢社会を迎えた今、高齢者は地域社会で大いに活躍すべきであるとして、地域社会と高齢者を結ぶ生涯学習の大切さを重要視した。

■生涯学習

八木氏は高齢者の元気が豊川市を活性化していくと期待した。

■捨て猫・野良猫

年間13万7千匹もの猫や犬が殺処分されている、それらによる地域住民への被害や苦情も多いことから、その解決策を取り上げたのは安間寛子氏(共産)。

■イオン進出計画

安間氏は豊川市と愛知県の役割などから質問を始め、猫の適正な飼育、愛知県動物保護管理センターとの連携など議論し、動物愛護

施策の推進を強調した。

そして生き物の飼育は命に責任を持つことを訴える「78円の命」が県の副読本として検討されていることから、「豊川市でも大いに活用すべき」と提案した。

4年前に豊橋市

議会が変われば日本は変わる

の女子児童(谷山千華さん)が書いた作文が、「78円の命プロジェクト」運動を起し、絵本となり、全国へ広まっている。

分が他の店の消滅で無くなったというイメージで共存している状況ではない」と指摘し、豊川市でも大型店舗の進出で小売店が取って代わられている状況から、「ららぽーと富士見」の進出時の富士見市の取り組みに倣って

産業振興条例を制定し、商業の活性化に努めるべきと提案した。

■高齢者の交通安全

早川氏は高齢者に対する交通安全対策、運転免許証自主返納事業について議論し、タクシー、バス、電車等の利用補助を進め、免許証を返納しやすい環境整備を要請した。

題提起した。

企画部長は3度にわたる合併を経て、安全で良質な公共サービスを実施できるような自主的に実行するものと位置付け、10年間で319人の削減につながったと述べた。

野本氏は定員適正化のためには人材育成が重要であり、今後増え続ける行政サービスに対応できる専門職の採用、エキスパートの育成が重要と強調した。

市長も「今後も、行政経営改革に力を入れ、体力強化を図ることで、施策の実現を図っていく」と決意を込めた。

3日間の「豊川市議会傍聴記」を書かせていただき、今年の傍聴記を締めくくります。

豊橋市議を引退直後の11年6月に「豊橋市議会傍聴記」を皮切りに、今回まで延べ138回連載させていただいたことになりました。

最も華やかで意義のある発言の場一本会議一般質問に挑む議員諸氏の徹夜をも厭(いと)われない労苦を住民の皆さんに伝えたい。そして「地方議会が変われば日本は変わる」と書き続けてきました。

来年もまた、傍聴席の片隅でペンを走らせませす。